

**「主体的・対話的で深い学びに向かうための
授業改善」実践事例**

第4学年 道徳科

教材名 「合言葉は話せばわかる」

「いっしょになって、わらっちゃだめだ」

1 子どもが見通しをもち、自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

(1) 教材分析シートを活用した発問づくり

児童に何を考えさせたいのかを明確にするため、教材分析シートを活用し、授業構成を行った。道徳的価値にせまる中心発問や問い返しを精選することで、児童がより自分事として課題を捉え、主体的に考えられるようにした。

教材分析シート	
教材名（出典）	いっしょになって、わらっちゃだめだ（東京書籍）
主題名	よく考えて行動する
教材の骨子	① 道徳的に変容したのは誰か。 ぼく
	② 変容するきっかけとなったことは何か。 父親の言葉をきっかけに、からかわれているみのるを見てどうしたらいいか考え抜いたこと
	③ 生き方についての考えを深めるところはどこか。 「ぼく」にできそうなことをじっくりと考えた結果、みのるや周りの友達に同調せず、だまって教室を出て行ったところ
構成	<p>話の展開</p> <p>①ぼく 父親に、からかって遊ぶことはいじめではないかと言われた。</p> <p>次日もみのるがゆうじをサルとからかい、みんなでどうしたらいいだろう。</p> <p>否定をしたが、気になって仕方ない。</p> <p>父親の言葉や昨日のゆうじの表情を思い出し、どうしたらいいか自問自答する。</p>
	<p>道徳上の展開</p> <p>②父親の言葉をきっかけに、からかわれているみのるを見てどうしたらいいか考え抜いたこと</p> <p>③「ぼく」にできそうなことをじっくりと考えた結果、みのるに同調せず、だまって教室を出て行った</p> <p>いっしょに笑ったらいじめになる。</p> <p>自分にできるのはこれが精一杯。</p> <p>みんなも笑うのはやめてほしい。</p> <p>自分が正しいと思うことを行動に移す。</p>
<p>◎中心発問 「ぼく」はどんなことを考えて黙って教室を出たのでしょうか。</p>	

(2) 教材提示の工夫

あえて教材を区切って提示し、よいと思っても行動できない主人公の葛藤する心情を焦点化して考えさせた。そして、後半で主人公が「黙って教室を出た」行為の根拠に迫り、道徳的価値（善悪の判断、自律、自由と責任）の理解が深まるようにした。

よりよく行動するために大切なことは何だろう。

2 教材の前半を読み、話し合う。

ハイリントタイム
(グループ
→全体)

○ 「サル」という声が続いているとき、「ぼく」はどんなことを思ったでしょう。
・ゆうじくんがかわいそうだ。やめてほしい。
・どうしたらいいんだろう。困った。

○ 迷っている「ぼく」はどうしたらいいと思っているでしょう。
・からかうのはやめよう、と言えればいい。
・先生に相談すればいい。
・ゆうじくんに謝りたい。

○ あなたが「ぼく」だったらどうしますか。
・自分がいじめられるかもしれないから嫌だ。
・言い返されるかもしれないから、怖くて言えない。

○ ゆうじの気持ちも合わせて考えさせることで、被害者の視点に立たせるとともに、傍観者もいじめの加害者であることに気付かせる。

○ 「ぼくにはできそうもないことばかりだった」という言葉に着目させ、迷う気持ちに共感させる。

★ 心情メーターに表すことで、行動したいけどできない難しさについて自分事として捉えさせる。

★ 多様な価値観に出合わせるために、正しい行動をしようとする「ぼく」の葛藤する気持ちについて話し合わせる。

主人公はこうしたらいいと思っているけど、行動する勇気がないんじゃないかな。

自分だったらダメだよと言うけど、「ぼく」は勇気が出せなかったかもしれないな。

ぼくにできることの精一杯が、「悪口を言わない」と決めて教室を出て行くことだったのだと思う。

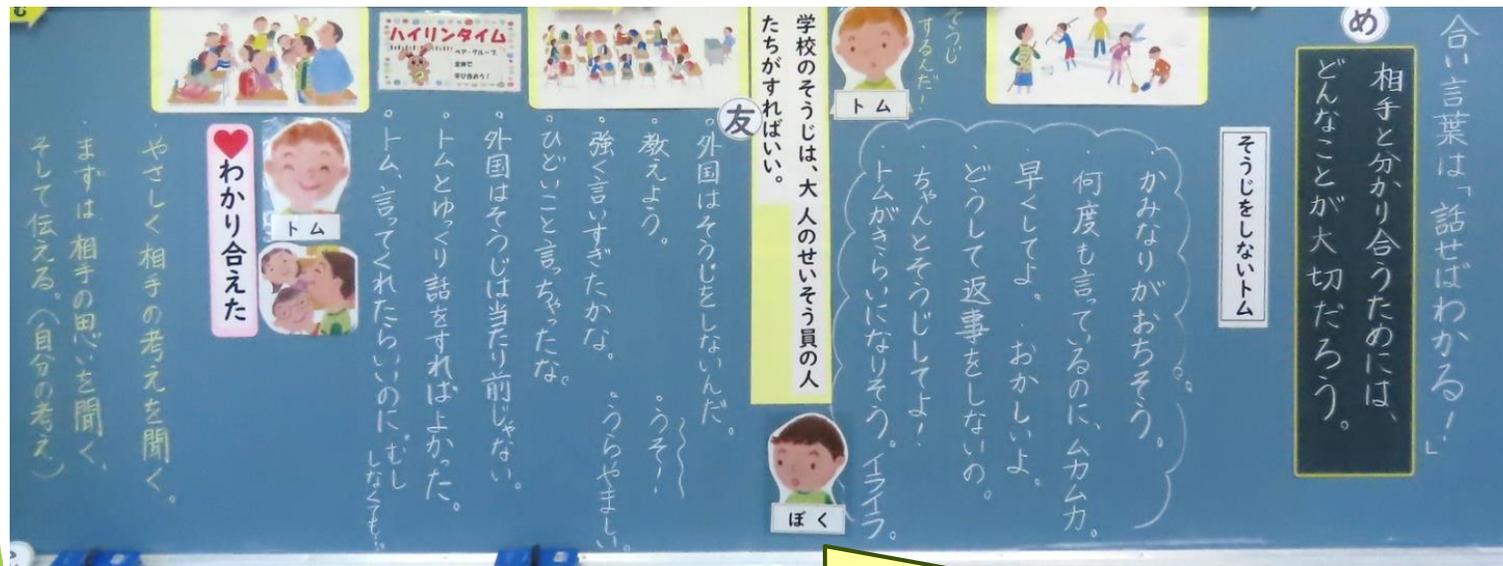
(3) 子どもの考えを深める「問い返し」

教材分析シートを用いて、予め予想される児童の反応にどう問い返せば、子どもたちの意識を揺さぶり、新たな気づきを促すことができるかを考えた。それを基に、子どもの発言に応じた問い返しを行い、全体に広げることで、児童の思考を深め、子ども同士で高め合う学習につなげるようにした。

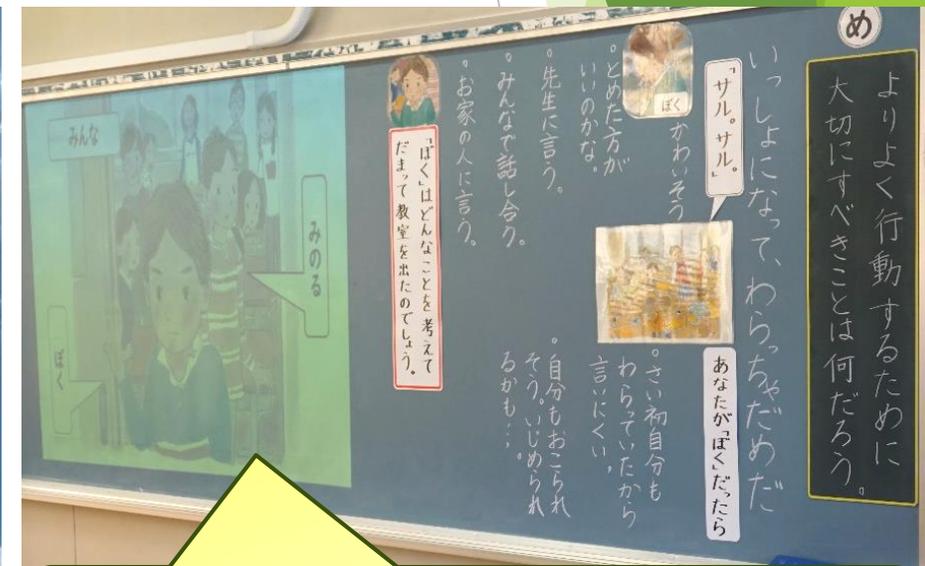
中心発問と 問い返し	◎中心発問 「ぼく」はどんなことを考えて黙って教室を出たのでしょうか。
	(予想される児童の反応) → (問い返し) ・ いじめだということをみんなに気付いてほしい。 → みんなに「やめよう」と言えばいいんじゃないかな。 ・ 自分は笑わないぞ、という気持ち → もし笑ってしまったらどうなるかな。

(4) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた構造的な板書

主人公の葛藤や、中心発問の前後での主人公の心情の対比に視点を当てたレイアウトを行った。また、挿絵や電子黒板を活用し、板書する量を絞ることで、子どもが思考を整理しやすくなる工夫を行った。



児童に意識させるため、中心発問には色をつけて提示した。



ICTを活用し、登場人物を整理しながら読み聞かせることで、課題についての思考を整理しやすくなるようにした。

2 自他を大切にし、 学び合う活動（ハイリuntime）の充実

(1) 学び合う姿勢の意識化

日頃から「相手に伝わる声で話す」「互いの意見をしっかりと聞き合う」ことを**どの教科でも**意識するよう、声掛け等の工夫を行った。また、自分の思いを安心して伝え合える、温かみのある支持的風土づくりを大切にした。



友達の方を向いて、伝わる声の大きさを発言しよう。



「似ています。」（ぼくの考えと似ているよ。きちんと反応しよう。）



ありがとう&
ほめほめタイム

〇〇さんが進んで黒板をきれいにされていて、すてきだと思います。

(2) 学習形態の工夫

「自分だったらどうするか」の問いでは、ペア活動で自分の考え方、感じ方を伝え合い、比較する活動を取り入れた。その後、全体での話し合いを行うことで、道徳的価値に関わる考え方、感じ方の多様性について考えさせるようにした。



ペアだと友達に考えを伝えやすいな。

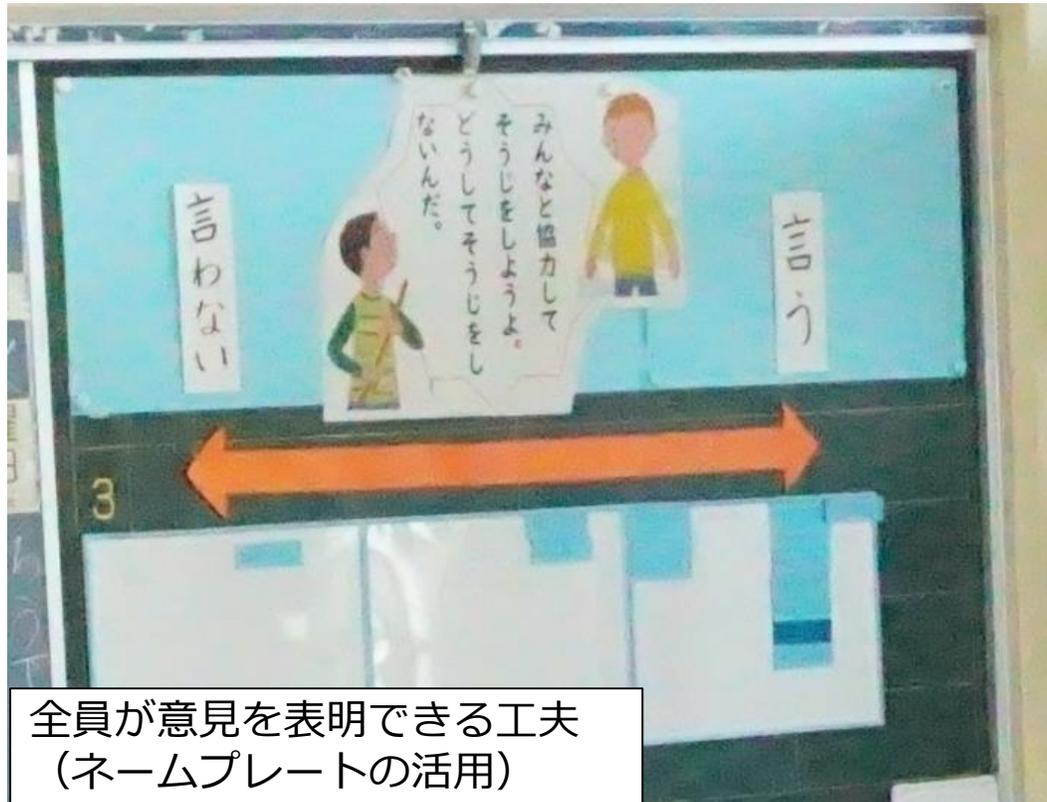


他にもこんな考えもあります。

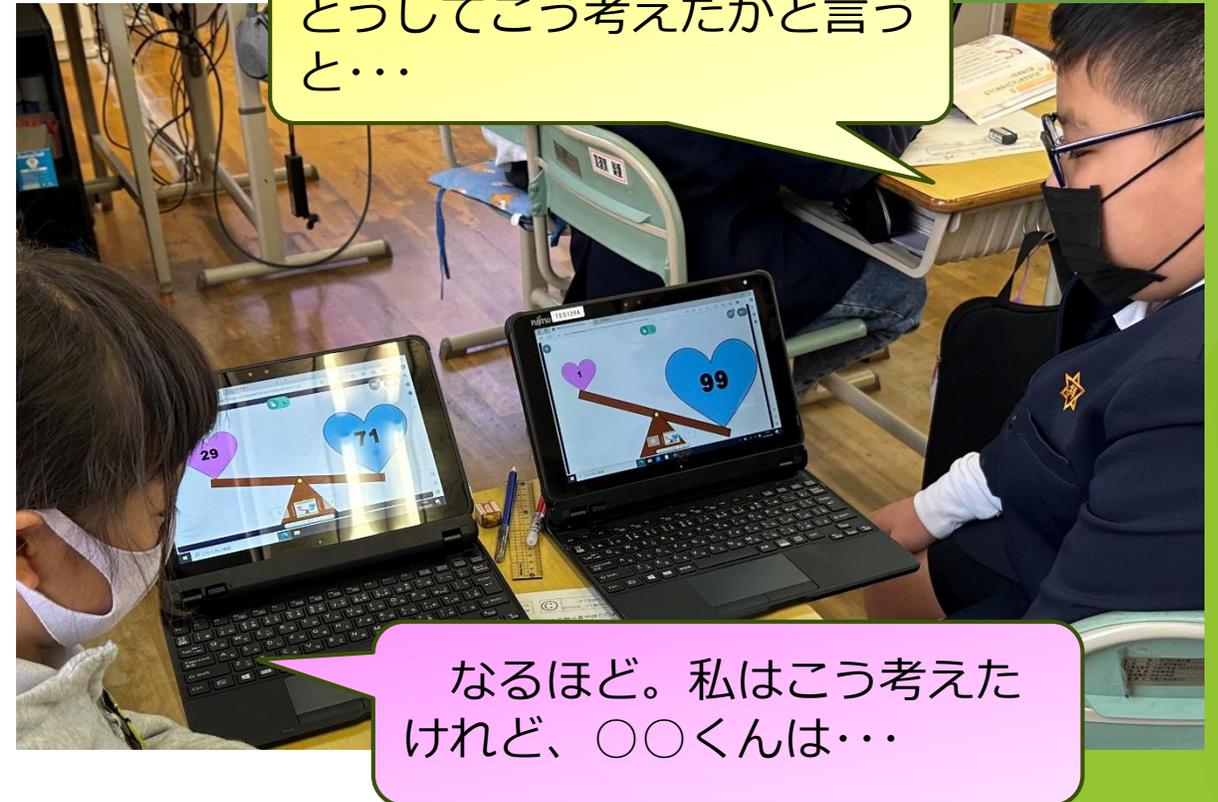
ぼくの考えと似ているな。

(3) 自分事として捉え、対話を生み出す話し合い活動

課題を自分との関わりで捉え、一人一人が意見を表現できるよう、「ネームプレート」や「心情メーター」など、学習する教材に合わせてシンキングツールを活用した。自分と相手の考えの違いを視覚化することで、そう考えた理由や根拠について進んで話し合う姿が見られ、互いの意見を受け入れ、考えを深め合うことができた。



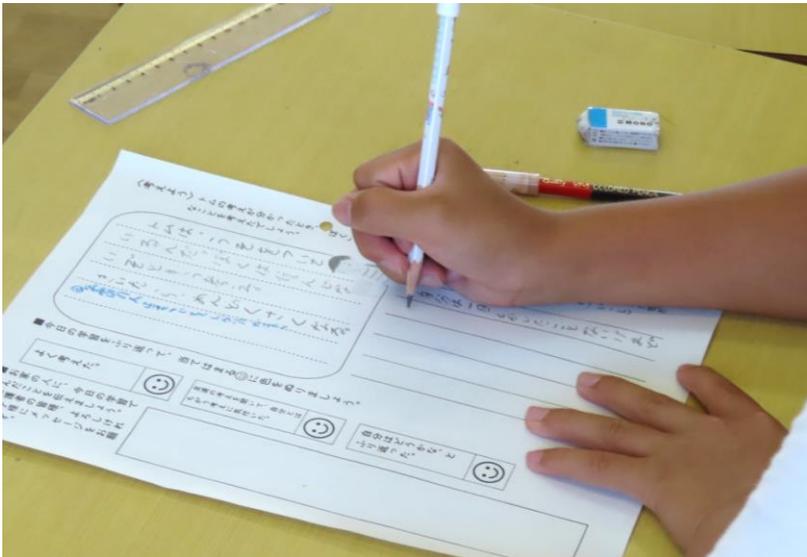
全員が意見を表明できる工夫
(ネームプレートの活用)



3 学びの成果と自己の成長を実感し、 次の学びにつなげるための振り返りの工夫及び評価

(1) 振り返りの視点の提示

導入と終末のまとめを連動させた振り返りを行うことで、学習の前後で道徳的価値に対する自分の考えがどのように深まったかを、自分の言葉でワークシートにまとめさせた。その際、振り返りの視点を授業のねらいに応じて提示することで、児童が自己の生き方についての考えを深められるようにした。



【よりよい生き方について振り返らせる視点】

- ・ 今日の授業でいいな、と思ったことはありますか。
- ・ これから大切にしていきたいことは何ですか。

【多面的・多角的な考え方について振り返らせる視点】

- ・ 友達の考えで「なるほど」と思ったことはありますか。
- ・ 今までの自分の考えと変わったところがありますか。
- ・ 自分の考えが広がったり、深まったりしたことはありますか。

【自分とのかかわりについて振り返らせる視点】

- ・ 登場人物と似たような思いをしたことはありますか。

成果

- 教材分析シート等を用いて、児童が主題について考える必然性のある課題提示や発問の工夫を行った。教師が学習内容を明確に意識し、活動を組み立てることで、児童は何について考え、議論するのかについて見通しをもつことができた。
- 自分の意見を自由に言えるようにするための、温かい学級の雰囲気づくりに努めたり、学習形態を工夫したりすることにより、自分の思いや考えを主体的に伝え合おうとする姿が見られた。
- 自分事として捉えられるような振り返りを行うことで、学習の前後での考えの深まりを意識したり、自分の生活にどう生かしたいかという思いにつなげたりする思考の深まりが見られた。

課題

- 人権・同和教育の視点から見た指導の工夫として、被害者の視点に立ちきって考えさせる場面をどう生み出すか、また課題をどう自分事として捉えさせるかを授業の中にどう位置付けるかが難しかった。児童の反応に臨機応変に対応し、深い教材分析に基づいたねらいにせまる発問づくりを、今後も研究していく必要がある。
- 話し合い後に、静かに「書いて」活動を振り返る時間を十分に確保することが難しい場合が多々あった。心の奥深くで十分に自己を振り返られるようにするためにも、学習のねらいにせまった授業デザインをしっかりと構成していきたい。